

令和 7 年度 自己評価・施設関係者評価報告書

令和 7 年 3 月 まるやま学園かおり幼稚園

評価実施日 令和 8 年 1 月 19 日～2 月 6 日

(1)本園の教育目標

自分で考え自分で行動できるこども

(2)教育方針

教育目標達成のために、一人ひとりのこどもの個性、能力を十分に伸ばし、自己確立していく指導を心掛けます。自己達成していく指導に、教員の一方的な考えによる指導をするのではなく、こども一人ひとりが自ら興味を示し、自分の力で取り組み、自己肯定感を高めていくことを可能にする環境構成について考え、取り入れて行くよう、努めています。こどもが今、何をしたいか、興味、関心、欲求、考え、また変容していく姿を的確に把握し、そのこどもの欲求や考えを実現することを援助していきます。

(3)教育課程

- ・ 自分で考え自分で行動できるこどもを育てる
- ・ 他人に対する思いやりを育む
- ・ 失敗に挫けない意欲を育てる
- ・ こどもらしいこどもを目指す

以上、4項目を大切に、指導計画を立てます。

(4)本年度の重点目標

昨年度に引き続き、今年度は仮設園舎での保育となるため、通常とは異なる環境の中での活動が増えました。環境に左右されることなく「自分で考え自分で行動できるこども」という教育方針が実現できるよう、教職員と保護者がこれまで以上に一体となった幼児教育を行うことを目標とします。

- ・ どのような状況でも、こどもたちの健やかな成長を支える質の高い保育を維持するため、新しい環境に適応した創意工夫を行います。
- ・ 安全性への理解と信頼を深めるため、保護者や近隣住民との積極的なコミュニケーションを図り、また教職員で共通意識を持てる環境づくりを醸成します。
- ・ 「自分で考え、自分で行動するこども」の力を育むため、保育士自身が模範となる姿を示します。どんな環境であっても課題に向き合い、主体的に考え、行動する姿勢を子どもたちに伝えるよう努力します。

#

(5)自己評価結果まとめ

園長・教職員に各評価項目を自己採点(A～Cの3段階評価で、A:5点、B:3点、C:1点で採点)してもらい、その平均点と傾向を分析した。

園長は指導的立場からの評価、教職員は実務的立場からの評価となる。

ほとんどの項目で7～8割を達成できている自己評価となり、昨年度よりも高い評価となった。また園長と教職員の間で乖離するような評価もなく、適切な保育・園運営ができていると考えている。

なお、当園は昨年に引き続き、令和8年2月13日まで仮設園舎での運営となった。そのため今回の評価は仮設園舎での自己評価であり、通常園舎とは異なる評価をしている教職員もいることに留意されたい。

I 教育目標 教育方針

達成率 79.2%(昨年度 75.2%)

昨年度とほぼ変わらない達成率となった。

昨年度同様、教育目標や方針について他の先生または園長と意見を交わす機会が少ないと感じている。来年度よりミーティング方法やその細分化、職員ノートによる意見交換ができるような体制を整えることとなっている。

自己評価 項目	各項目の達成率
園の教育目標や教育方針を理解している。	92.0%
園の教育目標や方針について、園長や他の先生方と話をする機会がある。	62.7%
園の教育目標や方針を保護者に説明できる。	78.7%
園の教育目標や方針を理解し、子どもの姿や環境の構成、保育者とのかわりなど具体的な事例を思い浮かべることができる。	78.7%
園の教育目標や教育方針を念頭に置いて保育を行っている。	84.0%

II 教育課程 指導計画

達成率 82.9%(昨年度 69.2%)

昨年度より達成率が10%ほど上昇していた。

日々の反省を次の保育と計画に活かせるよう指導計画に盛り込んでいるが、園の教育課程を見直す機会がないと感じている教員が多かった。

昨年度も同様の評価が多かったため、来年度より園のルールブックを策定し、必要に応じて教育課程や園の教育目標がすぐに確認できる体制を整えることとなっている。

自己評価 項目	各項目の達成率
園の教育課程は、教育目標を生かして作られている。	84.0%
園の教育課程を、必要に応じて見直している。	68.0%
指導計画は、子どものしたいことや、興味のあることを考慮しながら作成している。	86.7%
行事は、子どもの生活上の意義を充分検討した上で指導計画に組み入れている。	84.0%
自分の保育と評価・反省について次の保育と計画に活かせるように行っている。	92.0%

Ⅲ 教育環境

達成率 79.4%(昨年度 66%)

今年度は仮設園舎での保育となったが、教育環境は概ね良好に整備されていると考える。

ただし、仮設園舎であったため、年齢の異なる子ども同士が触れ合えるような環境構成をすることが難しいと感じた教員は多く、これに関しては評価が低くなっている。

また、教育環境について意見交換ができていないかについては、他の項目に比べて評価が低くコミュニケーション不足がうかがえるため、来年度の第一の改善点としたい。

自己評価 項目	各項目の達成率
活動の環境を作る時には、指導計画を意識している。	78.7%
楽しい雰囲気の中で、安定して遊べるよう遊具や用具、素材などの質・数量を配慮し環境を構成している。	92.0%
子どもの思いや言動を参考にしながら、保育室の装飾や展示を考えている。	84.0%
自然や社会とかかわりを持てるような体験(畑の収穫や手入れ遠足など)を取り入れるようにしている。	84.0%
環境の構成について、先生方の中で積極的に意見交換を行っている。	68.0%
年齢の異なる子ども同士が、触れ合えるような環境構成をしている。	65.3%
季節を感じられる保育を実践している。	84.0%

Ⅳ 教育・保育の内容と方法

達成率 89.9%(昨年度 78.8%)

おおむね高い達成率となった。

Iでも触れたが、教育課程を意識することが他の項目に比べて評価が低くなっている。前項目でも述べたが、ルールブックの策定など、教育課程が意識できる体制を徐々に整えていきたい。

自己評価 項目	各項目の達成率
教育・保育内容や方法は、園の教育課程を基にして行っている。	84.0%
子どもの家庭での様子を参考にしながら、援助の内容を工夫している。	97.3%
遊びを通してルールを学んだり、我慢したりといった経験を積めるような工夫をしている。	94.7%
子どもが意欲的に造形活動(描画・製作)をする時間を大切にしている。	84.0%
食べ物についての話をする機会がある。	89.3%

#

V 保育者の役割・資質向上

達成率 85.3%(昨年度 70.0%)

昨年同様保育士として、幼稚園教諭としての役割、資質はしっかりと意識しながらの保育、教育はできていると考えているため、昨年比で達成率が大幅に上昇した。

ただし、他の教員が研修会で得た知識や体験を共有する機会が少ないと感じる教員もいるため、教育方針と同様、職員ノートやミーティングでレポートの回覧などを行い、情報共有に努めたい。

自己評価 項目	各項目の達成率
一人ひとりの子どもをよく観察するように心がけている。	100.0%
すべての子どもに平等に接するように心がけている。	97.3%
その場にふさわしい言葉遣いができる。	78.7%
子どもが遊びや活動を深めていくためのヒントやアイデアを提供している。	89.3%
子どもの見本となれるよう、言動や身だしなみに気をつけている。	76.0%
保護者との信頼関係を築く努力をしている。	92.0%
研修に行った先生の研修内容は、全員で共有している。	73.3%
指導上配慮を必要とする子どもについて、園の保育者全体で話し合い、共通理解をもって工夫し対応している。	76.0%

VI 保護者との連携

達成率 80.8%(昨年度 70.8%)

昨年に比べ、全体の達成率は上昇したものの、保護者との対話や子育て相談、子どもの家庭の把握などの達成率が大幅に減少した。個人情報保護の制約もあり、どこまで職員が各家庭の事情に踏み込んでよいか分からない状況がうかがえた。

保護者との向き合い方について、園としてのガイドラインを策定する必要性を痛感した。

自己評価 項目	各項目の達成率
個々の子どもの様子は、直接保護者と話をしたり、連絡アプリや連絡帳や電話などで伝え合っている。	86.7%
一人ひとりの子どもについて、家庭での養育方針などを把握している。	65.3%
保護者の子育てについての相談にのっている。	68.0%
保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚に話を聞き、園長に連絡、報告、相談している。	97.3%
正しい日本語、丁寧な言葉と敬語を用いて話しかけ、相手の話も落ち着いてしっかりと聞いている。	86.7%

#

VII 地域住民や関係機関との連携

達成率 65.9%(昨年度 55.6%)

昨年に引き続き、各章の中で最も自己評価の低いものとなった。

あいさつ等はできているが、近隣住民との交流が乏しいと感じる教員が約半数となった。

今後、大規模災害が発生した際、新園舎を避難所として開放する考えもあるため、普段から近隣住民との交流や連携が大事だと考えている。

令和 8 年度より、こうした状況を打開すべく、地域住民や未就園児の保護者を対象としたワークショップを開催し、交流の場を設ける計画になっている。

自己評価 項目	各項目の達成率
地域の人々と親しく挨拶ができる。	84.0%
地域のお祭りや伝統行事に参加することがある。	54.7%
地域のお年寄りとの交流を大切にしている。	52.0%
実習生を受け入れるときは、意義や方針を理解し、指導的立場で接している。	78.7%
地域の小学校と連携して、その小学校の行事や公開授業を見学に行っている。	60.0%

VIII 運営管理

達成率 80.7%(昨年度 62.5%)

安全管理については、当然のことながら全員が行っているが、捉え方に個人差があるため、できていないと考えている職員もいるため、7 割程度の達成率になったと考えられる。

また当園は令和 8 年度より、こども園としてスタートするため、教職員全員がイレギュラー発生時に困ることのないよう、事故報告書作成や役割分担を明確にしたマニュアル(園のルールブック)の再整備を進めている。

自己評価 項目	各項目の達成率
秘密情報(保護者・園児等に関する個人情報、および園の運営上の情報、保育技術・保育計画等の情報)については園長の許可なく使用、開示、漏洩していない。	100.0%
災害時や事故報告書の作り方を知っている。	78.7%
園の施設の安全点検、衛生管理をしっかりと行っている。	73.3%
園内での役割分担がはっきりと決まっている。	70.7%

#

(6)自己評価 自由記入欄要約

教職員に今年度の自己評価(よくできた点・反省点それぞれ)を自由記入してもらった。

【よくできた点】

- ・ はじめてフリーになって大変だったけど色々なクラスをよく見たり、人手があった方が良さそうな時に入るように気かけたり、そういう時がわかってきたり、行事とかの時は積極的に役割に入ったのをがんばったと思う。
- ・ いろんな先生の話し方、動き方、子どもへの関わり方、保育の仕方を見ることができた。外野から見ることによって、真似したいなと思ったこともあれば、こうしたらもっといいかもなど感じることもあった。今年得た学びは来年度以降に活かしていきたい。
- ・ 年長児ということで、子どもたちを見守る保育を意識して行うことができたと感じる。
- ・ 仮設園舎での保育で例年通りの行事内容では難しい状況のため事前に計画し、実行することができた。子どもたちの姿にあった保育内容を意識した。
- ・ ひとりひとり子どもを見てその子に合う対応や関わりを心掛けていた。
- ・ 初めての担任を持ったが、自分なりに子ども達の姿からどのようにすれば自分で考えて行動できるようになるか、相手に優しく思いやりを持てるかや興味のある遊びを提供して広げていくことなどを考えて行動するように努めた。
- ・ 学年の繋がりをしっかりともてるように意識した。(子ども同士も担任同士も)
- ・ 初めての乳児や複数担任の環境に慣れ、子どもたちや先生との関わり方を変えた。
- ・ 子どもたちのやりたい遊びやしたいことを寄り添って保育をすることができるよう心がけた。また、子どもたちからの声を大切に出来るようにパン屋さんごっこや映画館ごっこなどごっこ遊びを広げることができるようにした。
- ・ 加配として子どもに合わせた柔軟な対応ができるようになったと感じています。又、子どもの声に耳を傾けて遊びを展開していくことができました。
- ・ フリーを初めて担当する職員に対し、これまで自身が本園のフリーとして経験してきた内容については見通しがもてるよう丁寧に伝えつつも、常に一步引いたところから園全体の様子を見つめ、これまでかおり幼稚園が培ってきた保育のやり方等をより理解するよう意識をし日々取り組んできた点。
- ・ 預かり保育を運営するにあたり、先生方の意見を出し合える環境を作るよう努めてきました。仮園舎の為、必要な書類を毎日移動しながら不便な中での保育であったが、先生方の協力のもと、臨機応変に動いていたように感じています。

#

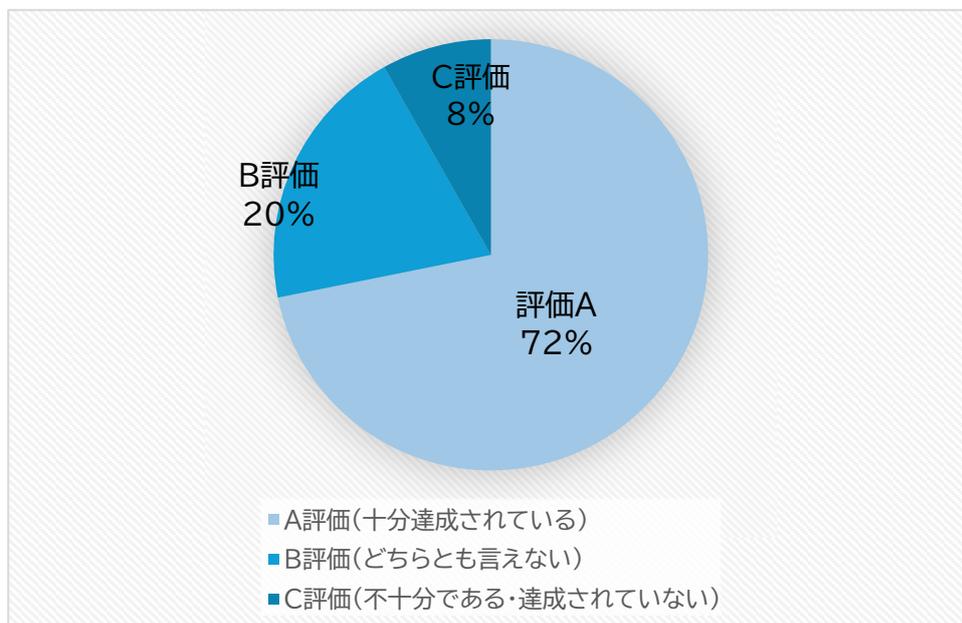
【反省点】

- ・ クラスに入ったり、子どもと関わる面では積極的に頑張れたと思うけど事務的な部分の仕事は他のフリーの先生が気づいた時にやってくれてることの方が多くて、そういうのを頑張りたいと思った。
- ・ 職員室でいろんな職員のいろんな意見が飛び交い合う中で、一緒に考えたり話し合ったりすることが多かった。それによって必要以上に他に神経を使いすぎたようにも反省している。自分がすべきことが何かをしっかりと判断しつつ、自分に集中する時間も作っていききたい。
- ・ 仮園舎ということで行える保育が少し限られていた。保育室の行ききや縦割りの関わりがもっと増やすことができたらいいなと思う。
- ・ 園外保育や外遊びの時間をあまり作ることができなかった。
- ・ 活動や行事の練習が続いていた時に子どもの遊ぶ時間の確保が難しかった。
- ・ 初めて学ぶが多く自分に任された目の前の仕事を完璧にこなすことに必死で先を見通して行動できることが少なかったり、自分自身に余裕がなかったように思える。
- ・ 仮園舎で年中長のクラスに行くことが難しく、たてわりの時間をあまり作ることができなかった。また、職員室で職員が集まる時間もなかったのも、年中長の先生たちとのコミュニケーションもあまり取れなかった。
- ・ 複数担任での保育の仕方の難しさや、勉強になることが多い年でした。その中で見つけた反省点を来年に活かせるよう頑張りたいと思います。
- ・ コミュニケーションが足りません。必要な情報が回ってきません。職員同士のコミュニケーションや関わり方、保育の環境の作り方など適切な指導が必要だと思いますが、誰もやっておらず、誰がするのでしょうか。上の方々には保育現場の把握をしっかりとお願いしたいです。
- ・ 毎日変わらないおもちゃで遊ぶ時間が多い中で、子どもたちに新鮮な遊び方の提供や新しい手遊びなどをすることが少なかった。
- ・ 自分の保育力や子どもとの関わり方でまだ悩むことや力不足だと思うことが多くあるため、他の先生の保育や関わり方を真似したりして自分にとってよりよく保育をすることが出来るようにしたい。
- ・ フリーの中での情報共有に難しさを感じました。又作業の進捗も見えづらいので来年度以降改善していきたいと思います。
- ・ 子ども園への移行に向けての準備等もあり、昨年以上に気持ちにも時間的にもゆとりが持てない日々であった。
- ・ 預かりの先生方、全員に伝達事項を把握してもらうことが容易ではなく、新園舎では見える化を意識して取り入れていきたい。

#

(7)施設関係者評価(保護者評価)

かおり幼稚園保護者の会にて、当園の評価を行っていただいた。



(評価項目詳細については、付録を参照)

【十分達成されている項目】

昨年同様、子どもたちが当園に通うことで子どもの成長を感じられるかどうか、また保育士の教育、保育方針や園の教育目標とその姿勢に対しては A 評価をいただいております。今後も高い評価を得られるよう、こども園移行後も努力を続けてまいります。

【不十分と評価された項目】

残念ながら、昨年と同様「保護者と教職員との間でのコミュニケーションが十分とは言えない、情報交換ができていない」という C 評価があり、教職員と保護者の連携をどう円滑に、積極的に、そして内容の濃いものにするかが課題となっている。

#

(8)保護者評価 自由記入欄要約

保護者の会役員に評価項目以外での意見、要望などを自由記入してもらい、下記のようなご意見、お叱りをいただきました。

真摯に受け止め、これからのこども園の運営にどう生かすかが、最大の課題と考えております。

- ・ さまざまな子どもたちと関わる機会は少なかつたと思います。その一方で働いている保護者の方が多いので、なかなか機会を設けるのも難しいとも思うので、お誕生日会などで園児さんと交流できる機会を楽しみにしております。
- ・ 怪我についての報告がなく、子どもから頭の怪我やあざについての聞くことがある為報告をしっかりと頂きたいです。
- ・ 先生によって保育の仕方は違うのは当たり前なのですが、叱った後に叱りっぱなしではなくフォローをしてあげてほしいと感じました。失敗も、それを糧に次に繋げるステップアップに繋げるためにも大切な事だと思います。

(9)今後、園が取り組むべき課題

教職員からも、保護者からもコミュニケーションが足りない、情報共有が難しい、という意見をいただき、また園長としても最大の課題は「保護者同士、教職員同士、そして職員と保護者、どのようにコミュニケーションをとるか」であると日々感じており、またそのための時間確保も容易ではないため、早急に取り組まなければならない問題であると痛感しております。

職員ノートなどで予定や意見の共有をする、デジタルツールの活用など、できることから始めていきたいと考えております。

以上

保護者の皆様

かおり幼稚園
園長 大澤 薫

幼稚園評価のお願い

日頃より、かおり幼稚園へのご理解とご協力をいただきありがとうございます。今年度の園運営や保育活動の総括と来年度の改善のために、保護者の皆様に園の評価をいただきたく思います。ご多忙のところ恐縮ですが、よりよい園をつくっていくために、率直なご意見をお聞かせください。

かおり幼稚園 教育目標

自分で考え、自分で行動できるこども

教育課程

1. 自分で考え自分で行動できるこどもを育てる
2. 他人に対する思いやりを育む
3. 失敗に挫けない意欲を育てる
4. こどもらしいこどもを目指す

この4項目を大切に、指導計画を立てます。

本年度の重点目標

本年度は、園舎建て替えに伴い、通常とは異なる環境の中での活動が増えることが予想されますが、環境に左右されることなく「自分で考え自分で行動できるこども」という教育方針が実現できるよう、教職員と保護者がこれまで以上に一体となった幼児教育を行うことを目標とします。

- ・ どのような状況でも、こどもたちの健やかな成長を支える質の高い保育を維持するため、新しい環境に適応した創意工夫を行います。
- ・ 安全性への理解と信頼を深めるため、保護者や近隣住民との積極的なコミュニケーションを図り、また教職員で共通意識を持てる環境づくりを醸成します。
- ・ 「自分で考え、自分で行動するこども」の力を育むため、保育士自身が模範となる姿を示します。どんな環境であっても課題に向き合い、主体的に考え、行動する姿勢を子どもたちに伝えるよう努力します。

評価方法

下記の評価基準を参照しながら、「保護者の評価」欄のA～Cのいずれかを○で囲んでください。

【評価基準】

- | | |
|---|---------------------------|
| A | そう思う・十分達成されている（おおむね80%以上） |
| B | どちらとも言えない（50%程度） |
| C | そう思わない・取組が不十分である（30%以下） |

提出期限

1月31日（金）までに、園長にお渡しください。

今年度の教育や運営に対するアンケート

	評価項目	保護者の評価		
		A	B	C
1.	子どもは幼稚園に行くのを楽しみにしている	A	B	C
2.	遊びや集団生活に必要な決まりを知り、守ろうとする態度が育ってきている	A	B	C
3.	子どもは様々な物事に興味関心を示し、知的好奇心や思考力、感動する心などが育ってきている	A	B	C
4.	人に対する信頼感や思いやりの気持ち、自己抑制力などが育ってきている	A	B	C
5.	子どもは体を動かし、体力が向上したり、たくましさが育ったりしてきている	A	B	C
6.	遊びの楽しさや達成感を味わい、自信をもって行動できるようになってきた	A	B	C
7.	子どもは自ら遊びを作り出す楽しさを味わい、幼稚園生活を楽しんでいる	A	B	C
8.	子どもは家族や近所の人、教職員などに、よくあいさつをしている	A	B	C
9.	運動会や遠足などの集団活動の中で、子ども一人一人が自己を発揮し、互いに力を生かし合いながら、共に学び合う様子が見られた	A	B	C
10.	幼稚園では、自然とふれあい生命を尊重する心や自然を大切にしている気持ちが育つような取り組み（遠足、畑で収穫など）がされていた	A	B	C
11.	保育士は子ども一人一人に目を向け、大切にしている	A	B	C
12.	保育士との会話や連絡帳等で、幼稚園やご家庭でのお子様の様子について日常的に情報交換がなされている	A	B	C
13.	幼稚園は保護者が様々な子どもとかわる機会をつくり、子どもの発達などに気付く機会をつくっている	A	B	C
14.	幼稚園は悩みや相談に親身になって対応してくれる	A	B	C
15.	保護者同士よくあいさつし、親しく交流できている	A	B	C
16.	保育士の子どもたちに対する指導や対応は、当園の基本的な考え方（教育目標・教育課程）と一致している	A	B	C
17.	保育中の発熱やけがなど、保育中の体調には適切に対応している	A	B	C
18.	アレルギー対応など食事に配慮が必要な際、家庭と十分な連携が取れている	A	B	C
19.	火災、事故、災害発生時や不審者対応など、緊急時の対策は充分に行っている	A	B	C
20.	幼稚園での個人情報情報は慎重に取り扱われている	A	B	C
21.	幼稚園の教育目標や指導の重点は分かりやすい	A	B	C
22.	幼稚園の本年度の重点目標は達成できている	A	B	C

* 上記項目への意見（特にC評価に対する理由、改善点）、園に対する意見・要望、お気づきのこと、園の努力点やよいところなど、自由にご記入ください。